

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 4 年 7 月 26 日(2022.7.26)

【公開番号】特開 2020-168079(P2020-168079A)
 【公開日】令和 2 年 10 月 15 日(2020.10.15)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-042
 【出願番号】特願 2019-69910(P2019-69910)
 【国際特許分類】
 A 6 3 F 5/04(2006.01)
 【F I】
 A 6 3 F 5/04 6 3 1

10

【手続補正書】
 【提出日】令和 4 年 7 月 15 日(2022.7.15)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

20

遊技の進行に応じて遊技価値を付与可能な遊技機であって、
遊技に用いられた遊技価値と、付与された遊技価値との差数を認識可能な差数認識手段と

—
前記差数認識手段により認識された差数が所定の条件を満たすものとなった場合に、遊技
を行うことが不能な不能化状態に制御可能な不能化状態制御手段と、
画像を表示可能な表示手段と、

特定信号を遊技機の外部へ出力可能な出力手段と、を備え、

前記表示手段は、前記不能化状態に制御されている場合であっても、遊技に関する情報を
読み取り可能な二次元コード画像を表示可能であり、

30

前記出力手段は、前記不能化状態になった場合に、前記特定信号を遊技機の外部へ出力可
能であることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 5】

従来の遊技機において、使用遊技媒体の総数と、払出遊技媒体の総数との差（いわゆる差
枚数）が所定の値（例えば、1 0 0 0 0 枚）に達した場合に、遊技続行不可能な状態（い
わゆる打止状態）にすることを可能としたものが知られている（例えば、特許文献 1 参照
）。

40

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 6
 【補正方法】削除
 【補正の内容】
 【手続補正 4】
 【補正対象書類名】明細書

50

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

【特許文献 1】 特開 2 0 0 4 - 1 3 5 8 3 8 号 公 報

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 削除

【補正の内容】

10

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明は、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつ、利便性を向上させること
を目的とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

20

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

遊技の進行に応じて遊技価値を付与可能な遊技機であって、
遊技に用いられた遊技価値と、付与された遊技価値との差数を認識可能な差数認識手段と、

前記差数認識手段により認識された差数が所定の条件を満たすものとなった場合に、遊技
を行うことが不能な不能化状態に制御可能な不能化状態制御手段と、

画像を表示可能な表示手段と、

30

特定信号を遊技機の外部へ出力可能な出力手段と、を備え、

前記表示手段は、前記不能化状態に制御されている場合であっても、遊技に関する情報を
読み取り可能な二次元コード画像を表示可能であり、

前記出力手段は、前記不能化状態になった場合に、前記特定信号を遊技機の外部へ出力可
能であることを特徴とする遊技機。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 削除

【補正の内容】

40

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

上記構成の遊技機によれば、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつ、利便性
を向上させることができる。